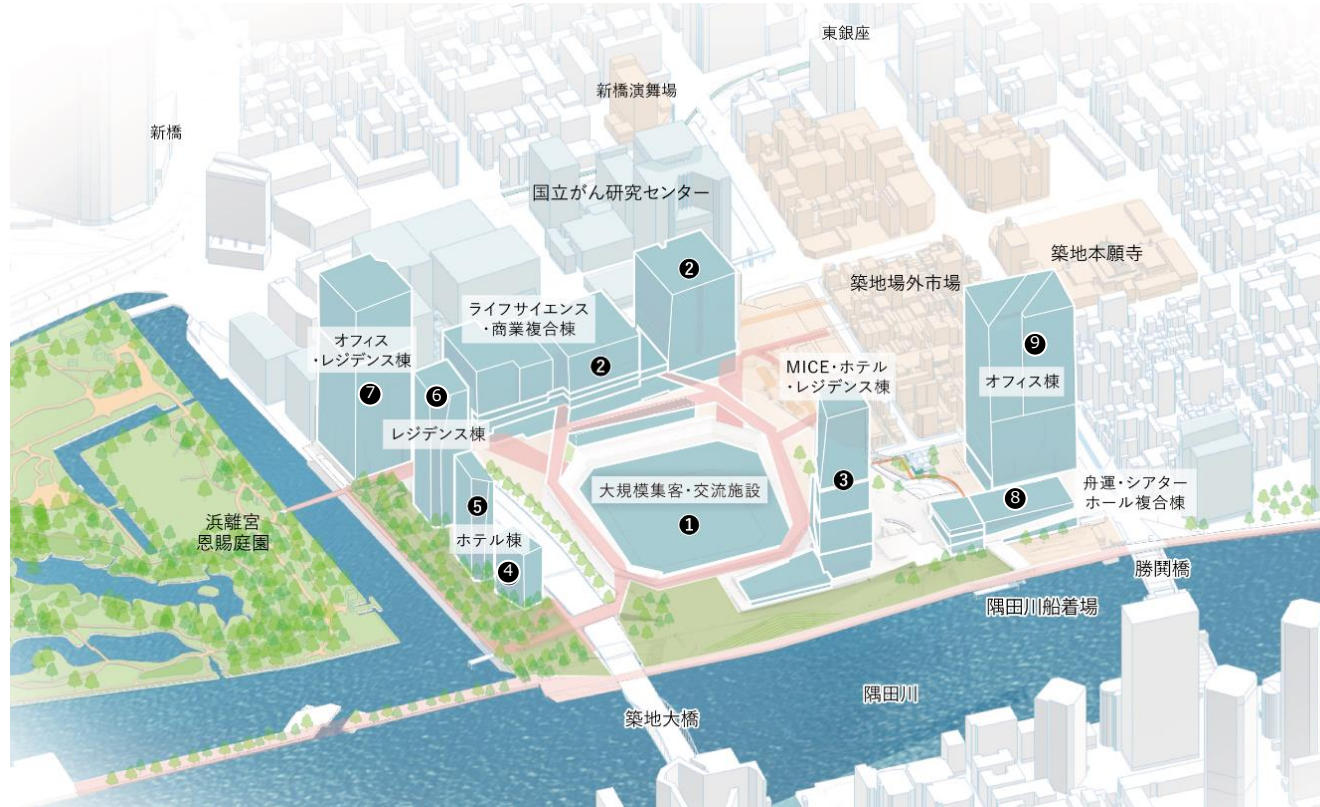


**築地地区まちづくり事業
(現在の計画状況)**

2024年12月

1. 事業概要



活用都有地面積	約19万㎡	配棟別諸元	① 大規模集客・交流施設	② ライフサイエンス・商業複合棟	③ MICE・ホテル・レジデンス棟	④・⑤ ホテル棟	⑥ レジデンス棟	⑦ オフィス・レジデンス棟	⑧ 舟運・シアターホール複合棟	⑨ オフィス棟
土地所有者	東京都	主要用途/ 機能	・スタジアム ・店舗 等	・ラボ&オフィス ・インキュベーション施設 ・店舗 等	・ホテル ・MICE施設 ・住宅 ・店舗 等	・ホテル ・店舗 等	・住宅 ・店舗 等	・オフィス ・住宅 ・店舗 等	・ホール ・店舗（フードホール等） ・フードラボ ・舟運利便施設等	・オフィス ・店舗 等
権利形態・期間	一般定期借地権・70年									
地域地区	商業地域									
指定容積率	500%/700%									

1. 事業概要

国際競争力の強化

無断転用禁止

資料2-2

大規模集客・交流施設

世界屈指の可変性と多機能性を備えた約5万人収容の屋内全天候型施設
(用途に応じて2万~5万7000席に可変)



イノベーション

ライフサイエンス分野をはじめとする高度人材・情報が集積するイノベーション・プラットフォームを構築し、オープンイノベーションを促進



食文化の発展・にぎわい

築地場外市場と連携し、食文化をさらに発展。
日本の食で世界を魅了するフードホール・食物販機能、食に関する研究機能を持つフードラボ等



迎賓・ホスピタリティ

国際水準の多様なニーズに対応するMICE施設、国賓やVIP、高度人材等の迎え入れが可能な宿泊・滞在・居住機能



1. 事業概要

水都東京の再生

無断転用禁止

資料2-2

水辺のオープンスペース

こどもからお年寄りまで多くの人が集い、様々なアクティビティを楽しめる、合計約10haのオープンスペースと水辺空間を整備



景観デザイン

人々が憩い、集う広場や水辺空間を作り、東京のウォーターフロントの新しい「顔」を形成



陸・海・空の交通広場

陸・海・空のモビリティが乗り入れ可能な広域交通結節点を整備し、築地場外市場と運動したにぎわいと交流を促進



環境先進都市

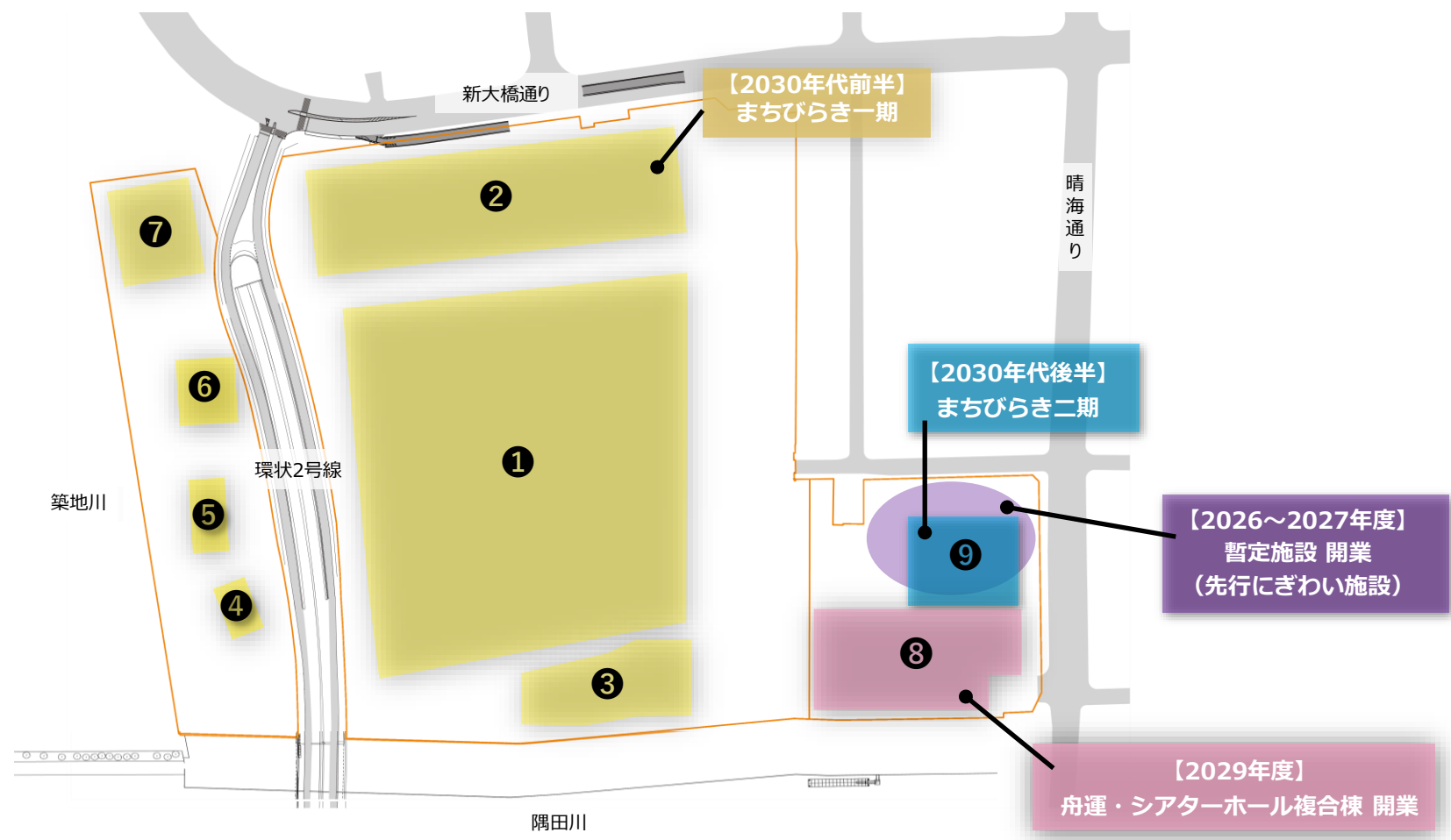
最先端の環境技術を活用したカーボンニュートラルの達成、多様な環境配慮の取り組み
<風の道、太陽光発電、緑化、水素ステーション等>



2. 想定スケジュール

2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年代前半	2030年代後半	2040年代	
埋蔵文化財・土壌汚染対応、各種許認可手続き				本体工事					交通インフラ完成
東京都との基本協定締結		暫定施設開業 (先行にぎわい施設)			⑧開業	まちびらき一期 (①～⑦開業)	まちびらき二期 (⑨開業)	高速晴海線 地下鉄新線新駅	

現状は「事業予定者」であり、2024年度末の基本協定締結を経て、「事業者」になる予定

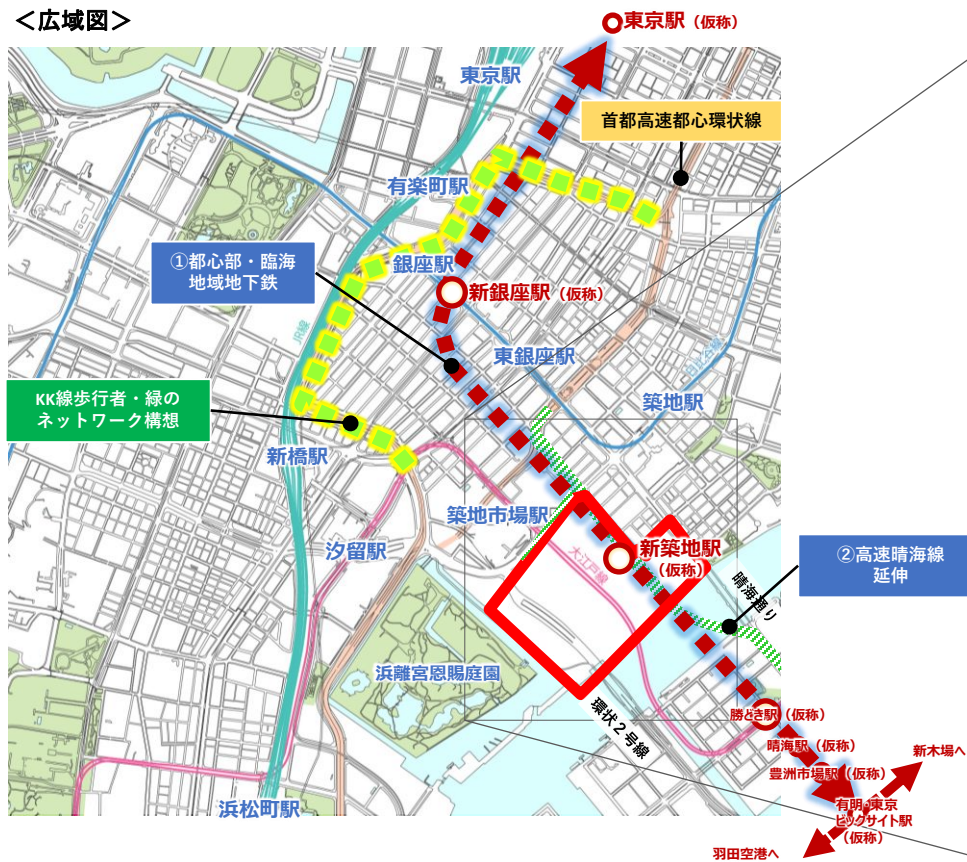


※本資料に掲載の情報は、現時点の事業予定者による想定であり今後変更の可能性がございます

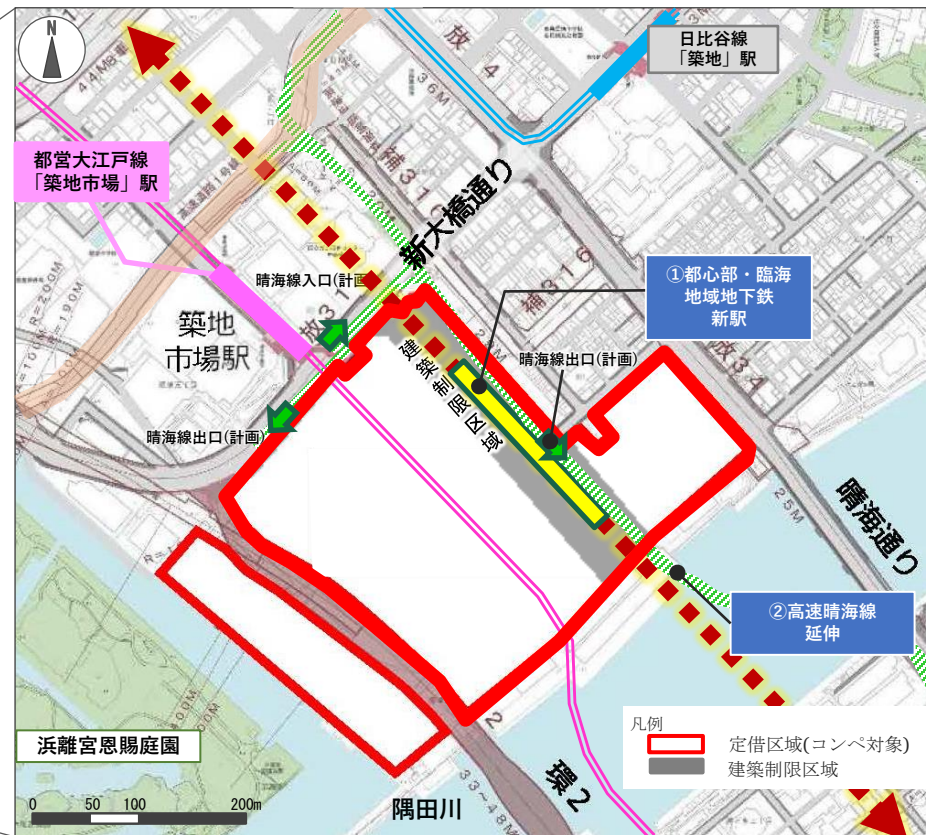
3. 基盤整備について

・将来的に、開発敷地内に①都心部・臨海地域地下鉄新駅と②高速晴海線の出口が整備される予定

<広域図>



<拡大図>



※本資料に掲載の情報は、現時点の事業予定者による想定であり今後変更の可能性がございます

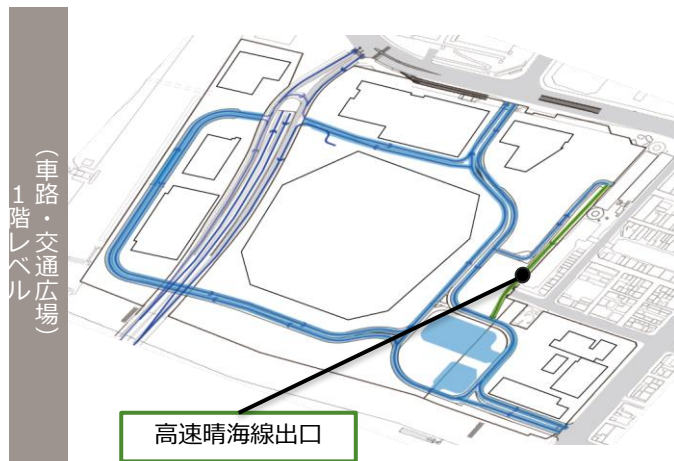
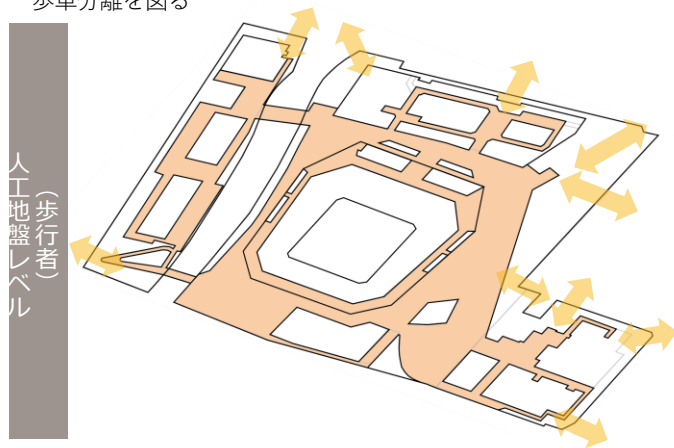
4. 現在の計画状況

① 街区内動線計画

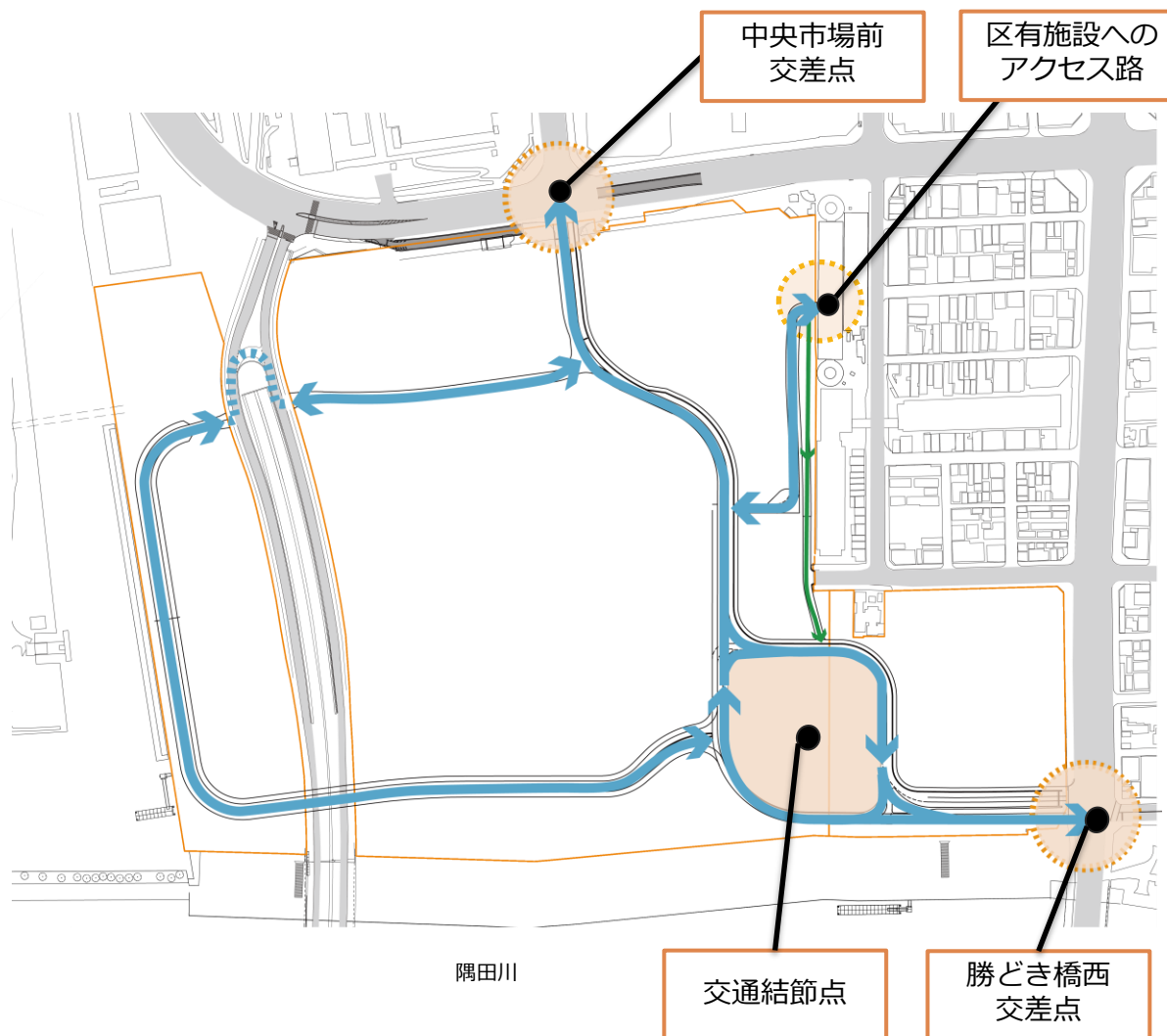
- ・歩者分離を図るため敷地全体に人口地盤（2階レベル）を整備し、周辺市街地と地域資源をつなぐバリアフリー化された歩行空間を整備する計画
- ・1階レベルには、車両用の地区内通路を設け、敷地内の各建物や周辺道路と接続を想定

歩車分離の考え方

- グラウンドレベル（GL）と人工地盤（デッキ）レベルで歩車分離を図る



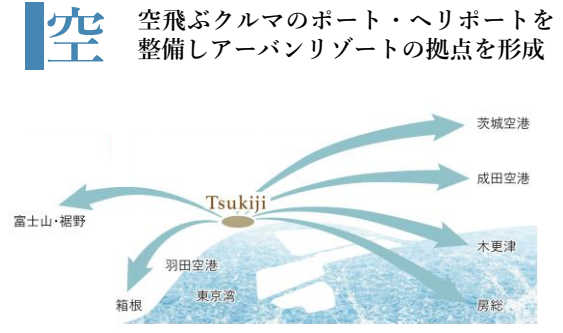
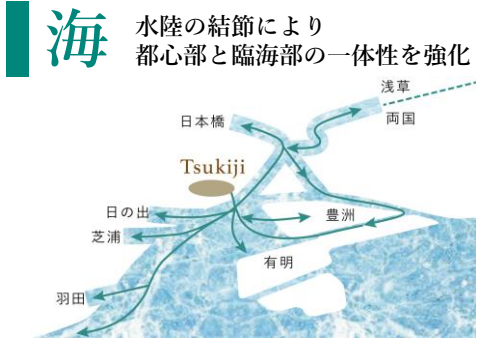
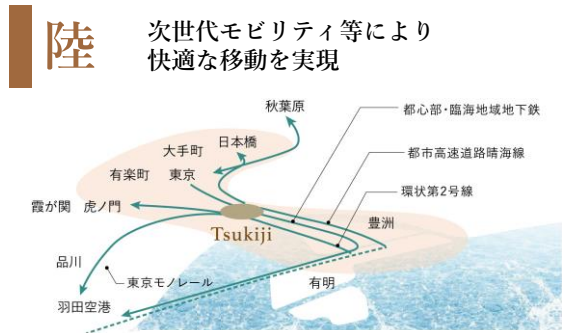
1階レベルの地区内通路計画と周辺道路との接続 ※東京都募集要項に沿った計画内容



4. 現在の計画状況

② 広域交通結節点

・陸・海・空のモビリティが乗り入れ可能な交通のターミナルを整備し、にぎわいと交流を促進



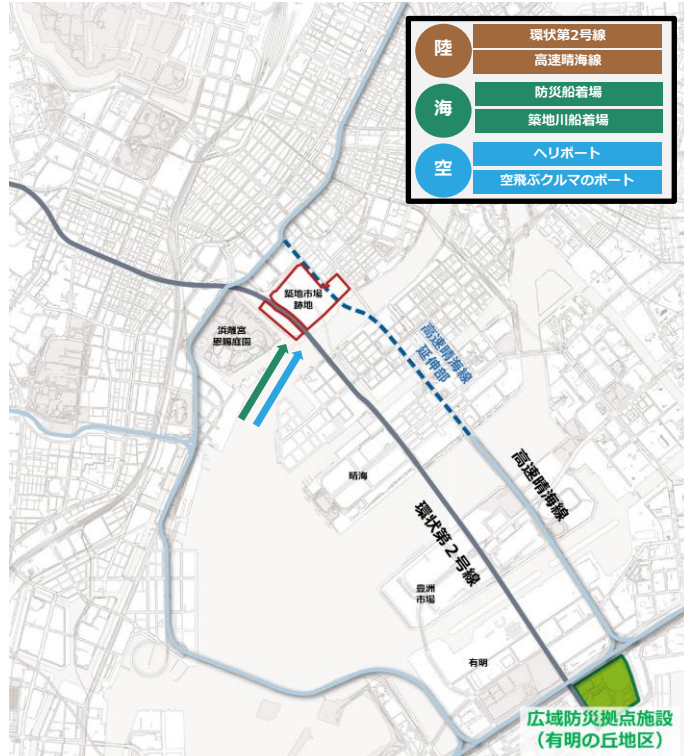
※本資料に掲載の情報は、現時点の事業予定者による想定であり今後変更の可能性がございます

4. 現在の計画状況

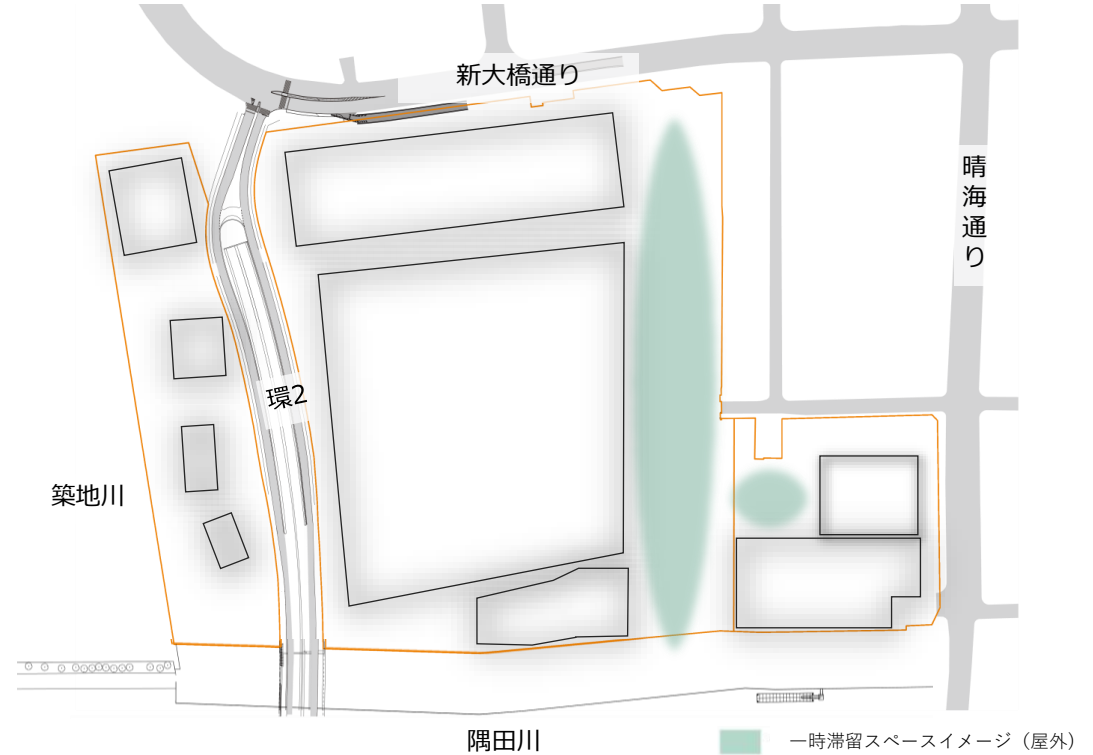
③防災

・広域交通結節点における陸・海・空のネットワーク活用とオープンスペースの整備によって、周辺地域を含めた防災拠点となることを想定

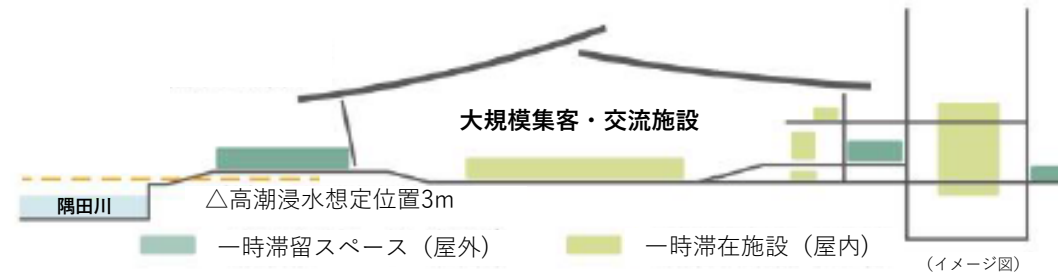
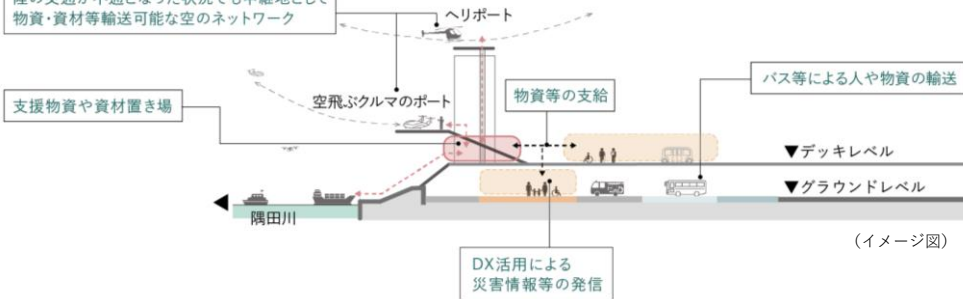
周辺地域を含めた防災拠点



防災の拠点となる一時滞留スペース (イメージ)



陸の交通が不通となった状況でも中継地として物資・資材等輸送可能な空のネットワーク



※本資料に掲載の情報は、現時点の事業予定者による想定であり今後変更の可能性がございます